

菊池は匈奴国か

弥生時代になると「茂賀の浦」の水が引いた後に新しいムラができてくる。

そして盆地面より一段高い台地上の見晴らしの良い所には、ムラを統率するクニがで始めた。花房台地の小野崎遺跡、三万田遺跡、台地の城ノ上遺跡、岡田遺跡、三次遺跡、山崎遺跡、辺田上霧遺跡、山鹿の方保田東原遺跡などが弥生時代に急速に勢力をつけたクニである。



小野崎遺跡より菊池盆地を望む

台地地の突端の「城ノ上遺跡」は、発掘当時「吉野ヶ里遺跡」に匹敵する大きなクニであつたろうといわれている。その後、花房台地では小野崎遺跡が発掘され弥生土器などがコンテナ2、000箱ほど出土した。鉄の釣り針などが出土しており興味深い。

時代は少し下るが、長明寺坂古墳、上梶迫露古墳、蛇塚古墳、木柑子高塚古墳、大塚古墳、長田外園遺跡、狐塚古墳、村田遺跡、赤星やんぼし塚古墳、福土・水溜遺跡など弥生時代から古墳時代にかけての古墳が集中しており、菊池川流域には、有力な勢力が存在していた。

菊池の古代史研究

中原 英

シリーズ菊池遺産⑦

問い合わせ先
企画振興課

☎0968(25)7250

熊耳山正観寺庫裏

元弘3年、12代菊池武時が博多の鎮西探題を襲撃したとき幼少の武光は博多の臨濟宗聖福寺にかくまわれ、菊池へ無事送り返されました。その恩義を忘れたかった武光が、同寺の大方元帳を招いて興国5年に建立した寺院です。

菊池武光は寺領66町を寄進し、菊池氏全盛のころ、境内には万松院など14坊や堂宇が建ち並び、宝徳3年、20代菊池為邦のころには、全国十刹に数えられ、代々碩学の高僧を輩出した西国屈指の大寺院でした。



認定番号
第特別 H21-4 号
推薦者 東正観寺区

熊耳山正観寺の礎石群

正観寺地蔵堂の基壇の周囲に礎石群があります。現在、礎石は基壇の東側に5個、西側に5個、北側に2列に5個と4個、

そして外側の中央に接して2個あり、原初の礎石は20個とみられています。

比較的正確に並んでいる礎石について調査すると、東・西側の柱間は3.33m、北側の各間も同じく3.33m、そして中央のみが4.24mとみることでできます。地形および礎石の残存状況から考えると、正面は三間、側面四間の建物とみられます。

礎石の周辺から古代の布目瓦が灰と共に出土しており、遺物や周囲の状況から平安中・後期の寺院跡と考えられ、当時の堂宇や庫裏があつたと想定されています。



認定番号
第特別 H21-5 号
推薦者 東正観寺区

熊耳山正観寺地蔵堂と木造地蔵菩薩坐像

正観寺のある一段高い所は庫裏ですが、その南の下にある平

人権同和教育シリーズ⑥3

迫水小学校3年

大つかまいさん

お母さんのかか

「行つてきまーす。おくれんごつ行かなんよ」

早出の時、お母さんは、わたしたちにこう言つて、バタバタバタと出ていきます。朝6時半には、おくれないうちに走つて車が出ます。

わたしのお母さんは、りゅうもんダムのロンロンかんではたらいしています。

いつもは、朝7時10分が20分には、行つています。よるおそくかえつてくる時もあります。月見の時なんか、朝わたしが起きた時には出て行つていたし、その日のよる9時半にかえりました。

「ただいま。つかれた」と言つて、おきやくさんの話などをしていました。

人権標語

旭志小学校5年 小倉衣央さん

だいじようぶ このひとこえで

すくわれる

旭志小学校6年 杉田京太くん

身のまわり

無理してる人は

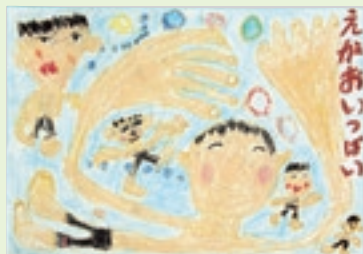
いませんか

お母さんは、ロンロンかんで、おべんとうをつくつたり、おみやげをうつたり、つけもののふくろをならべたりしています。たまにわたしたちが、ロンロンかんにごはんを食べに行くとき、ちよつとはずかしそうにしてよろこんでいます。

おひるは、ロンロンかんのレストランではたらいで、おひるすぎに、おきやくさんがいなくなつてから、台どころのすみでおひるごはんを食べます。おひるごはんを食べるのが夕がたになる時であつて、家で、夕食を食べきれない日もあります。

公みんかんで、けいろう会などがある時は、おべんとうを百何こかつくつて出しているそうです。前に一どお母さんがつくつたおべんとうを、公みんかんで見たことがあります。おかずがぎつしりつまっていました。土曜日もしごとです。ゴール

デンウィークも休みはありませんでした。立ちっぱなしだから、



ポスター

迫水小学校2年 はらだたくくん

テーマ「えがおいっぱい」

幕末の郷土の偉人

高木元右衛門直久(1833年~1864年)

高木家の祖先は近江高城の出で、永正年間(1504年~1520年)菊池氏に仕え、滅亡後は菊池郡深川村(現・深川)に住んだ。代々軍陣笛方の家柄で、加藤清正・忠広父子、細川歴代藩主に仕えた「第一道」の笛師であつた。

高木元右衛門は、天保4年、甚之助の次男に生まれた。笛師の家業を継ぎ、兄治三兵衛の剣術道場で、剣術・柔術・居合術・槍術を修得、元右衛門の門人も380余人を数えた。特に剣術・槍術では、藩内外の他流試合で勇名を馳せた。一時期玉名郡荒尾村の宮崎家養子となつた。

尊王攘夷の志厚く、文久2年、細川護美の「禁門」の警備に随行、翌3年5月肥後藩選出の親兵となった。8月18日の政変では三条実美ら七卿落ちの護衛のため脱藩した。また三条実美の命を受け、深川策助の変名で、上方の情報探索に奔走した。

元治元年6月、京都池田屋で長州・土佐・肥後藩の尊攘派らと会合中、新撰組の近藤勇・沖田総司らの襲撃を受けた。肥後藩の宮部鼎蔵は自刃、松田重助



は斬殺された。元右衛門は近藤勇に脇差と短刀で戦い、その包囲を脱出した。

翌7月、長州藩兵の先鋒として、会津・薩摩藩兵の警護する「禁門」(蛤御門)に、両刀振りかざして切り込んだ。会津藩兵の銃弾は股と隔(胸と腹の間)を貫通、その勇猛さと壮絶な死姿に首級を挙げ得なかつたという。享年32歳。

辞世の歌
・屍をば 都の苔に
埋め置きて わが大君の
まもりとやせむ
・太刀刀 ぬきはなちたる
今日よりは 治る御代の
始ともしれ

墓は、深川の共同墓地の北隣り高木家墓所内にある。また京都霊山神社境内には、長州藩殉死者の墓標群の中央に「肥後高木元右衛門源直久墓」(写真)が建っている。

文学博士 堤 克彦